

夜の 仕事





「フッフ♡
いつも指名ありがと、〇〇さん
今日はたっぷりサービスしてアゲルね♡」

「やあ、いのちゃん
来たよ」

「それは楽しみだぜ、
今夜は寝かせないぜ♡いのちゃん♡」



「ふっ、やっぱり
凄いデカ○ン
前にやった時より
デカくない?♡」

「へーいのちゃんの
為にチ○トレしてるからね」

「もう我慢できない♡
もう頂く…ね♡」

「んっ、ヤバいつ
ふっ太おっい♡」

「あつ、うっ
相変わらずいのちゃんの
絶品マ○コヤべえ♡」

「いのちゃん、
腰振りヤバすぎ!!」

「だつてえ♡
こんなデカ○ン
がイケナイんだもん♡」

「そんなに俺のチ○コ
なんて…」

はっ

はっ

ん

はっ

ふっ

ふっ

たん

ドッ
ッ

パン

ん

ん

ん

ん

ん

ん

パン

パン

パン

——30分後

「オラオラ!!ヨコへんが
気持ちいいんだろ!!」

「オッ!ヤバ!!さっきから奥に
アッ♡当たってる!!♡」

「さっきから♡イキっぱなし♡
でッオ♡スゴ♡ヤバい♡」

「いのちゃん、俺もうやべえから
出すぞ!!」

「うん♡あつ♡私の♡子宮に
貴方の♡プリプリザーメンを
出して孕ませてえ♡」

「オラオラ!!このドスケベマ○コ
俺のザーメンでたっぷりイけえ!!」

「本気の♡種付けプレス♡ヤバッ来る♡
イク♡イクイク♡イクッ!!」



「ふっふっふ
出した出した」

「でもこれで終わりじゃねえから
今夜は長いから覚悟しろよ」

「あっ♡♡♡♡♡
はぁ♡♡♡♡♡もっ♡もっ♡
おねが♡♡♡♡♡します♡」





















